

診療情報管理室

業務内容

業務内容は下記の通り

1. コーディング・台帳業務

集計や統計等に使用するための、基礎となるデータの管理を行っています。また、WHO が定める国際疾病分類 (ICD-10) を用いて分類を行います。

2. 統計

当部署で管理しているデータを用いて指標の作成を行っています。

3. がん登録

がん登録等の推進に関する法律に基づいて、がんの診断、治療、経過等に関する情報の登録と、データの提出を行っています。これらの情報を国に提出することにより、がん対策や質の高い医療を実施するための分析に使用されます。

4. DPC (DPC/PDPS (Diagnosis Procedure Combination / Per-Diem Payment System)

DPC とは、診断群分類別包括支払制度で、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法です。当部署では、コーディングチェック、エラー修正、データの提出を行っています。

5. NCD(National Clinical Database)

NCD とは、様々な疾患・治療・手術に関する日本全国の医療情報を収集しているデータベースです。専門医申請のための診療実績を証明するインフラとしても活用されています。当部署では、外科の登録症例の管理を行っています。

6. 診療録開示

患者さん等からの申請を受け、診療録の写しの交付を行っています。

- ・ 院内がん登録全国集計、全国がん登録、地域がん登録へのデータ提出
- ・ DPC コーディングチェック、エラー修正、データ提出
- ・ 外科系の専門医申請で必要となるデータベース登録症例の管理
- ・ 患者さんや裁判所、警察等への診療録の写しの交付

展望/抱負

診療情報管理室の全体的な目標としては、データをうまく利活用できるような取り組みを行っていきたいと思います。がん登録では、より一層質の向上に力を入れ、そのデータを用いて、全国と比較した自施設のがん診療状況を把握し、がん診療の方向性等の検討を行うための資料作成等、がん登録データを様々な場面で活用していきたいです。地域がん診療連携拠点病院としては、自施設の情報をホームページ等で適切に公表し、地域のがん患者さん及びご家族等に当院の状況を知っていただけるようなデータを作成していければと思います。また、DPC データは、病院の経営や役割を知る上での重要な情報となるため、データの精度向上を図るとともに、DPC データを活用した他部署からの様々なデータ作成依頼に応えられるようデータの理解を深め、適切なデータ加工を行えるよう力を入れていきたいと思います。これら以外の情報も利活用に向け整備し、病院運営に寄与できる情報を作成していけるよう、業務に取り組んでまいります。

業務実績

- ・ 入院、退院、救急搬送、手術、退院時要約等の件数の把握、管理
- ・ 日々整備しているデータを元に、臨床指標等の統計を作成 (年報巻末には疾病統計を載せています)